

# カティンコ

数理物質科学研究科 1年 小澤悠一

## 北京バイオリン

監督：陳凱歌（チェン・カイコー）

### あらすじ

豊かに水をたたえた美しい風景と、人々の素朴な温もりが残る中国の田舎町。そこに息子を一流のヴァイオリニストにする事を夢見て全てを捧げる貧しい父と、父を愛しながらも顔も知らない母の面影を追い求める少年が住んでいた。少年は母の形見のヴァイオリンを弾くのが得意だった。二人はコンクールに出場するために北京へ行き、そこで著名な先生の個人指導を受ける事になり、北京で暮らし始める。急激な変化を遂げる競争社会の大都会は、地方出身の少年の心に影を落としたが、少年が奏でるヴァイオリンの旋律は、彼に関わる人々の心を癒してゆく。やがて少年は国際舞台に羽ばたく大きなチャンスをつかむが、それは愛する父との別れを意味していた。そしてその時、少年の出生の秘密が明かされる。果たして少年が選択した道とは...？(公式ホームページより抜粋)

### 感想

見終わった後、深い感動と清しい気分を味わうことができた。最後のチュン少年の決断はまったく間違っておらず、もうひとつの選択肢をとっていたならチュン少年に成長はなかったと思う。少年のバイオリンは人のために弾くから人の心を動かし、すばらしい音色を奏でるのだから。

この映画はストーリー以外にもいろいろな見所があった。まず、映画中の風景の美しさ、途中で挿入される風景の構図がとても美しく見とれてしまう。また、現在進行形で進む中国の古いものと新しいものが混在しているところも興味深い。田舎と都会という対比ではなく、北京の中にも新しいもの(デパートなど)と古いもの(下町の家々)が混在していることが良くわかる。こういう細かいことを見ていくのも楽しい。

絶妙のバランスで最後まで見るのに飽きなかったこの映画は文句なく皆にお勧めできる良作といえる。

## 始皇帝暗殺

監督：陳凱歌（チェン・カイコー）

## あらすじ

世界史上最大の権力者として知られる紀元前 3 世紀の中国、秦・始皇帝（リー・シュエチエン）。その始皇帝がまだ政と呼ばれていた頃、彼の命を狙おうとする希代の暗殺者（チャン・フォンイー）。そしてふたりの愛憎に大きく揺れ動きながら、自らの運命に立ち向かっていく趙姫（コン・リー）。（公式サイトがなかったので Amazon のレビューから）

## 感想

こちらもチェンカイコーの映画なのだが、北京バイオリンとは全く異なりずしりと重い映画になっている。この映画の見所はなんといっても役者の衣装やセットの豪華さである。セットだけでも 20 億円、制作費は別に 60 億円かけられているらしい。ただ、ハリウッド映画のようにむやみにラブシーンを入れたり、CG に頼って映画全体を安っぽくすることなく、まとまっている。この映画では時代考証をしっかりと行い、役者の髪型や衣装、軍隊のつける甲冑(兵馬俑を参考にしたのではないかと思われる)までをリアルに再現している。また、この映画でも前述の作品と同様に美しさがそこかしこに散らばっているので、そちらに注目しても面白いと思う。

この映画を見てあまりにも残酷であると感じる人は多いと思うけれど、これは監督がサディストであるということではなく、古代中国の思想、習慣などを本当に忠実に再現していると感じた。ここまでリアルに、また、考えさせられる映画も少ないと思う。時代考証や矛盾の詰まったラストサムライを見るくらいなら、この始皇帝暗殺を見たほうが何倍にも考えさせられるし、勉強にもなるよ。(合戦シーンの甲冑はあの時代にはありえないだろうと思い、気分がまったく乗らずラストサムライ見てないけど)

今回はこんなもんで許してください。次は僕の大好きなアキ・カウリスマキの映画についてでも書こうかな・・・

## ではでは早速カチンコ 108 号以降に見た映画の感想。

エシス 1 年 山口智也

### ~グッバイレーニン~

ずいぶん前ですが映研で観ました。お話はベルリンの壁崩壊直前のドイツでの話です。随分昔に夫に西側に逃げられ(本当は色々あるんですが、ネタバレ防止)それから、女手ひとつで息子娘を育てたなんだか社会主義とレーニンマンセーな母親と、就職して人並みに自由運動ぐらいは参加してる息子との親子愛のお話です。

ある日の帰り道に母親が、運動に参加した息子がタイホーされるところを目撃してしまい、体制マンセーな母親は卒倒し何ヶ月か寝たきりになってしまいます。その間にベルリンの壁が崩壊し、西側の文化がどんどん流入して、余命わずかな母親にそれを見せまいと奮闘する(見せたらショック死するらしい。)というのが筋です。どうも、僕は約 15 年前にまだあんな国があったのかというのと、あの東側独特の雰囲気には微笑してばかりでしたが。母親の人生最後の日々に母親のために奔走する息子がとてもいいです。母親の死に際の息子の努力は涙ものです。僕も少しは親孝行しなきゃいけないのかなと思った。

### ~戦場のピアニスト~

TV で観ました。ところどころカットされてたみたいですが、最初にグロシーンがありますがと出てきましたが、加減はプライベートライアンの 1/10 位です。オーストリア在住のユダヤ系ピアニストの第 2 次世界大戦のお話です。奇跡的にも主人公は生き残ることができるのですが、それまでの紆余曲折がなんともいえません。前線でなく後方で戦中どのような状況だったのか知るにもいいと思います。戦争はまさしく狂気ですね。ドイツ占領下のユダヤ人に対する暴行や虐殺、貨物列車に家畜同然に押し込められるシーンは非人道的というか狂気です。(同じようなことを何年も前からソ連は自国民に対して行ってますが。)

戦争を描いていることも確かなのですが、僕はそれ以上に人生って何が起ってどうなるかわからないと思いました。主人公は奇跡的にもさまざま命の危機を切り抜けて戦中を生き延びるのですが、最後に出てくるドイツ軍上級将校の転落がなんともいえません。人生とはなにか考えさせられました。

ドイツ語を取っているのでちょっとドイツ語がわかったのがうれしかったです。それにしてもあれですね。号戦車とか野戦砲とかよくできてたね。うん。

### ~マスター&コマンダー~

ナポレオン戦争中のフランス私掠船を追う旧式イギリス戦艦の戦いとその艦長と親友の船医で学者の友情を描いたお話です。僕は船が大好きなのでみました。木造なのに大砲 100 門も積んだ 4 層甲板戦艦というアフォーとしか思えない木片が浮いてる時代の船の戦法がどうだったのかかなりマニアックにやっています。戦闘シーンも忠実で迫力がありました。あんな木製戦艦でもポンプ(人力だけど)とかおいてあるんですね。風の力だけであんなに機

敏に動けるなんてすごいですね昔の人は。ストーリーは男の友情ばくってよいです。どうも僕は男の友情に弱いようです。それにしても木造帆船戦艦はなんともいえない現代にない風格があっていいですね。僕も一隻欲しいよ。

### ～ノーマンズランド～

バルカンあたりで戦争とも殺し合いともつかぬ生半端なことをしている人たちのお話。始まりは両陣地の中間地帯で敵同士が鉢合わせ、しかもなぜか背中に地雷を仕掛けられた男までいるという状況から始まります。一通りお互い脅したり、脅されたりして互いの主張をします。その間に国連防護軍が救出に来たりするのですが...

笑えはしませんでした。苦笑ぐらいですテーマ的に。でも、面白いシーンはたくさんあります。わざわざ大勢でメディアとその護衛の国連軍が中間地帯に入っていくのをなんなんだこいつらって顔で見てる現地兵とか、そろそろ立場がやばくなってヘリで見に来た、国連の司令官の登場シーンとか。ここでは、神のおでましたっていうのですがそれがなんといえませんが。確かにこの戦場では彼は神でその部下は天使であり、何にもしてくれないという点でもバッチリ同じです。ちなみに司令官にはお決まりの美人秘書までついてとてもお買い得です。

戦争熱で戦争ばかりやってる人たちと、その戦争を止めようかなと思いつつも、結局自分の損害を恐れて保身ばかりで結局何もしない国連防護軍と、表向きは戦争は悲惨ですみたいなことを宣伝しつつもこいつら視聴率しか興味なんじゃね？って感じなメディアと、まったく無関心な people が絡み合っていてよいです。欧州人は少しは関心をもちましょって、一番関心ないの日本じゃん。残念。

にしてもあれだね。冒頭の T-55 の砲口アップはしびれるね。

### ～ミスティックリバー～

思ったほど伏線があるわけでもなく、かといってサスペンスとして面白くないわけでもなく。まあまあです。でも、思ったほどではなかった。

### ～シークレットウィンドウ～

ジョニー・デップがでてます。はっきりいってサスペンス慣れしてない僕でも先がよめました。恐怖感は音響で押してる感じですかね。最初はぼさぼさなヘタレジョニーなんですけど、最後のやけにさっぱりした笑顔のジョニー・デップが気持ち悪すぎです(カッコいいけど)。とくに、ゆでトウモロコシをガブッってやるところがね。このトウモロコシが一癖も二癖もあるのですが...

### ～タイムマシン～

婚約者が殺されちゃったので、それじゃ時間戻せばいいんじゃないかねーの？と思ってタイム

マシンを創っちゃったある意味単細胞だけどすごい学者の時間冒険のお話。

昔の映画みたいに、鉄人のコントローラーに真空管ついただけの毛の生えたタイムマシンとおもいきや、今回はカンテラみたいのがぐるぐる回って光るびっくりドッキリメカでした。タイムマシンはなかなかの力作かと。ストーリーはというと…。ちなみに僕の友達がこのDVD かったのですが、どこがよかったか聞いたらエマ(婚約者)が全体の 50% 良かったと答えました。ちなみに、エマは最初の 1/4 もでません。しかも、何回も殺されるような、なかなか悲しいキャラです。

ところで、80 万年たったら、人間はテレパシーできるくらい進化するんですかね？

### ～ハリーポッターとアズカバンの囚人～

有名なファンタジー。僕は原作は賢者の石～炎のゴブレットまでしか読んでないのですが、アズカバンが一番面白かったとおもって、借りてみました。相変わらず原作を忠実に実写化していてとてもいいです。原作読んでから見たほうが色々面白いと思います。でも、あれですね、散々思わせぶりなことをいつきながら、帰ってきたらなんのことだね？ みたいな校長の無責任さと保身(悪いことをハリーたちにやらせたからね)には少々腹が立つ(?)かな。それにしても、ディメンターとナズグル(ロードオブザリング)のキャラのかぶることかぶること。

### ～TAXI～

なんだか、ネタに走りすぎた感がある。そもそも、コレを見たとき体調が絶不調だったので、ちゃんと観れてる自信はないけど、意外とあっけなく終わった。

やっぱり、平成ガメラと同じで がよかったかな。あの、将軍パパの目茶っぷりがよかったな。あの降下直前の笑顔とか。どちらにしても、一生に 1 台くらいあんな車造って飛ばしてみたい。

### ～トロイ～

ぶっちゃけ、ブラピがでて、大勢でファーワーやってるだけです。みていると、トロイ戦争じゃなくて、ローマ時代のゲルマン人の戦いじゃね？ という疑問がわいてくる。それにしても、ロードオブザリングからこの手の作品が多いですね。アレキサンダーとかキングアーサーとか。

## 最近観たい映画

### ヴァン・ヘルシング

友人にこれを読めといわれヘルシングというコミックを読んでます。それから個人的には吸血鬼ブームです。それだけです。氷室京介が一枚かんでるらしいですが、たぶんラルクがゴジラを一枚かんだときと同じくらいなかみかたなんだろう。

## アンダーワールド

ただ単に、吸血鬼ブームで、ジャケの二丁拳銃が観たいだけ。

## ビッグフィッシュ

ティム・バートンのシザーハンズ級にメルヘンなものを見るのもよいかと。でもティム・バートンってすごいですよね。

## 隣のヒットマン 全弾発射

前作が面白かった。人の女を寝取る野郎は最低です。

## 死ぬまでにしたい10のこと

自分が死ぬまでにしたい10のことを考えてから観ます。

## ロスト・イン・トランスレーション

よくわかんないけど、ずいぶん前に話題になったし。藤井隆でるし。

## 地獄の黙示録

ちょっと時期はずしましたが、あのチャチャチャチャーチャーでベトコンでニクソンでジャングルでゲリラでディエン・ビエン・フーでホー・チミンな映画を観たい。

## ファイト・クラブ

やたら友達が絶賛してた。面白いらしい。

## ロボコン

映研の先輩の紹介。何を隠そう自分が今やってますから、これは観ねば。

## パイレーツ・オブ・カリビアン

まだ観てないんですか？嘘でしょう？すいません。観てません。船モノだし観ようかな。ちなみにディズニーランドでは弟はホーンテッドマンションが好きです。夏行くと涼しいですしね。カリブの海賊は初めに少し落ちるから嫌いです。

## あとがき

本当は、これを始めに入れたかったのです。そもそも、他の映研の方と比べて大して映画を観ているわけでもなく、ビジョンもなく、経験もなく、とてとても映画を語れるような資格はないのです。しかし、最近英語の授業でこういうネガティブなことは始めに書いてはいけないと教えられたので書かないわけにもいかず、あとがきとしました。

ネタバレしてたらすいません。一応気をつけて書いています。特にサスペンス系はあまり書かないようにしました。ネタバレしたらまったく面白くないですからね。

最近映研は突然テンション上がりました。どうやらカチンコを本格的に配布するそうです。映画雑誌も買うし、もしかしたら、DVDまで買うかもしれないそうです。これは入部当初に比べればかなりのはじけぶりです。でも書く直前はあんまりテンション高くなかったような気がするのは僕だけでしょうか？いや僕だけかもしれない。今年の映研はとてものがんばるそうです。僕も影ながら応援しております。皆さんがんばってください。

## カチンコ

社会1年 日下部裕香

はじめまして。初カチンコです。緊張です。よく考えたら大学に入学してから、あまりちゃんと映画館に観に行っていないんですね。行きたいです。ということで、今回は私の気に入った映画を紹介したいと思います。何度も観たくなるような映画特集ということで、実際何度も観た作品達です。

僕のバラ色の人生

監督\*アラン・ベルリネール

主演\*ジョルジュ・デュ・フレネ

\*「女の子になりたい…」純粋に大きくなったら女の子になれると信じている男の子、リュドヴィック。でもそんなリュドに、家族や世間の目は冷たくて。。

\*リュドヴィック役のジョルジュ・デュ・フレネ君が演技うまいです。髪を切られるのを嫌がる仕草とかすっごくかわいい！おばあちゃんだけは優しく受け入れてくれるんですけど、結局誰もリュドに直接本当のことを教えてあげてないんですね。ちゃんと教えないで怒ってばかりって、子供にとっては一番辛いと思うんだけど。親としてはへたに色んなことを教えて、そっちの方向に行かれたら怖いからかも知れませんが、リュドが何故周りの人を困惑させるのか分からずに、でも嫌われたくないっていう表情する時とか、キュンってなります。でもなんだかんだでこの映画のいいところは、家族が最後までリュドを守ってあげてるんですよ。でもって、それが直接的でベタベタじゃないところがリアルで好きです。お父さんは全然子供を理解しようとしなくて、お母さんも途中でやたらきれたりするし、決してリュドの嗜好に理解があるとは言えない普通の家庭なだけに、「僕、男の服を着るよ」「お前の好きに」っていうやりとりでは毎回ボロ泣きしちゃいます。

ラスト舞台となる街や家、全てがカラフルで鮮やかで、おとぎ話みたいでワクワクします。だからこそ後半、街の人の偽善が見えてくるあたりから画面の変化がはっきり出てくるのも、効果バッチリだし。フランス映画特有の淡々とした感じもないので、フランス系苦手な人でも楽しめる映画だと思います。

(1997・ベルギー・フランス・イギリス合作)

DRUG GARDEN

監督・主演\*広田レオナ

\*広田レオナ初監督作。広田レオナ役が広田レオナ、夫役が実生活でも夫の吹越満だし、レオナが昔パニック・ディスオーダーだったっていうのも本当らしいってことで、「どこまでが現実？」みたいな気になります。レオナ、フッキー(吹越)、息子のマーク、ドラッグクィーン(以下DQ)3人、売れないモデル・チル、カッコいい男の子・シンケンで共同生活してるんですが、会話とか自然で、自分もそこにいるんじゃないかって位。もしくは他愛もないおしゃべりを盗み聞きしてるみたいで楽しいです。レオナの病気のための薬多量

投与/摂取、チルのヤク死、レオナの妊娠などが中心となるストーリー。でもストーリーよりとにかく雰囲気がとても印象的で、シーン・シーンで頭に残るのが多いです。全体的にライトが強いの、それがまた現実感喪失させる感じで。超個人的には「お願いだから、触らないで。見ないで。」っていうフレーズや、チルの勝手な孤独感とかどうしようもない自己嫌悪とか、勝手にすごく共感します。一応「エロス」をテーマにしているらしいですけど、本当「どこが!？」って感じで、むしろ同居人として自然にDQを生活に登場させたりすることでそういうイメージを払拭させてる気さえします。存在として認めちゃってるから、同じDQを扱った作品と比べても「プリシラ」や「ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ」程重くないし。お気に入りにはマーガレット(DQのうちの一人)の「私達は自分の力で夢見てんのよ」って台詞。それから、お葬式のシーン。音楽も独特で、マッチしてるし、純粋に広田レオナもきれいです。

ギャングスター・ナンバー1

監督\*ポール・マクギガン

主演\*ポール・ベタニー/デヴィット・シューリス

\* 60年代。ポール・ベタニーが、デビット・シューリスに気に入られて、ギャングスターになり、その後一生かけて彼を越えるNo1ギャングスターになろうともがく話。スーツ、車、カフスポタン、タイピン、時計...全てがかっこいいです。ジェントル!!ポール・ベタニーの切れ目の暴力シーンも勢いがあるって飽きないし。「時計仕掛けのオレンジ」のマルコム・マクダウェルが出演してるのにもかなり注目です。

(2000.イギリス)

翼をください

監督:レア・プール

(Lost and Delirious)

主演:パイパー・ペラーボ

\* 正直言ってラストは全然納得行かないし、脚本もありがちで、演出も分かりやすすぎな映画だけど...でも何度もみてしまう。それは!パイパー・ペラーボに釘付けになって引き込まれてしまうんです。異常に感情移入させられてしまって、泣きまくります。あと女子高独特の空気というか、ノリとか、すごいテンション上がります。詩をやたら引用するのもガーリーでウキウキ。制服も可愛いです。

(2000.カナダ)

以上、日下部裕香でした。

同じ文化系サークル会館で活動していながら、お隣のボックスで何が行われているのかわからないのって寂しいよなあ・・・、という思いつきからついに実現しました、「現代視覚文化研究部」対「映画研究部」の珍対談！文サ館役員等が推進するサークル間の交流を果たすべく、映研部長の田口礼美(タグ)が、現視研部長の本田瑞穂さんに挑みました。

## 部長対談 第一回 ゲスト 現代視覚文化研究部

タグ まずは質問なんですけど、今回の対談について、部員さん達はどういう反応をとられましたか？

本田 いやぁ、その...対外的にあんまり外に出ることが無いようなネクラが多いので、今回のようにどんどん外に出ていけたらなぁと。

タグ そうですかぁ、よかったですぁ。団体協議会とかでも、サークル同士の交流とかをすごく勤めてるんで、そういうものの先駆者になれたらなぁと、まずは現視研と映研の対談をやってみましょう。現視研を見ていつも思うんですけど、部員さんでどれくらいいらっしゃるんですか？なんか、ボックス(部室)のみ出しちゃって、通路側に出ちゃってる人が多いので、どれくらいいるんですか？

本田 スミマセン、スミマセン！(苦笑)えーっと、正式にはほんとに二十六人、ですけどそれプラスOBが入ったり、マイナスで幽霊部員がいたり...

タグ だいたい、一回のミーティングに集まる人数ってのはどれくらいなんですか？

本田 うーん、いろいろ違いますけど、金曜日は特に多くて、三十人くらい来ちゃいますね。

タグ かなり多いですねえ！じゃあ部長さんとして、サークル運営やっていくのって結構大変じゃないですか？

本田 うーん、わりと頭を悩ませますえ...。とりあえずうちは、イラスト・漫画を書く班と、文章を書く人と、あと立体物を作る人で分けてミーティングをしようっていう感じにして、うまい具合分けてみたんです。

タグ あ~はい、その班っていうのが、この前言った「班別ミーティング」ってやつですね。でもその班ごとに分かれて、最終的にはどういう企画を動かしていくんですか？

本田 とりあえずは大きなイベントというか、学祭(学園祭)と新歓祭で自分の作品を展示していけるようにと。あと、あんまり言えないんですけど、自主制作映画とか作ってみたりとかして... (照)

タグ えっ、映画撮ってるんですか！？

本田 いいカメラを先代が手に入れたかなんかで、それが残ってるんだって使ってしまうおうということ、いろんなことやってます。

タグ でもやはり、漫画とかアニメとかそういうものを研究してるってところなんで、作る映画とかも、またちよっと変わってきますよね、普通の一般的なものとはちょっと違うものを...

本田 はい、普通のドラマとかは絶対作れなくて、特撮をやったりとか。先輩の企画ではあるんですが、ウルトラマンみたいなスーツを着て、怪獣とか作ったりしてやってますね。

タグ 特撮かぁ、なるほど~。あの実は、私も以前アニメとかにすごく興味を持っていた頃があって、コミケとかにも行ったりしてたんですけど、同人活動なんかはやってないんですか？

本田 あ~はい、コミケには毎夏と冬に参加しています。団体で、会誌とか出していますね。

タグ そうですかぁ、でもあれですよ、コミケとかって、会場の前なんかで、いろんなコスプレとかしてる人いるじゃないですか？ああいうコスプレの衣装とか作ったりはしないんですか？

本田 多分、今いる人はやってないと思いますけど、OBの中にはいたりしますね。あんまり、こう、表には言えないんですけど...

タグ いやぁ~(笑)何でそんな隠そうとなさるんですか、ちゃんと活発に活動してるなぁという印象を持ちます。あぁ、あとこれは聞いておきたかったんですが、映研のイメージってどんな感じですか？

本田 僕としてはやっぱり映画を作ってるんだと思ってたんですけど...違うんですか？

タグ あ~、やっぱりそう思ってるんですか...(苦笑)映画は作ってませんねえ。

本田 じゃあ、開始というか、今後始める予定は？

タグ うーん、多分、Viccっていう、言わば姉妹サークルみたいなものがあるんですけど、そちらが元気ながぎりは映研はやらないでしょうねえ。

本田 あぁ、そうですか~。ん~、じゃあ他に何か？

タグ あ~、そうそう、お昼とかに文サ館に行くと、現視研だけ誰かいますよね？あれは何をやってるんですか？

本田 いやぁ、お恥ずかしながら、たぶんゲームをやってるんだと思います... (苦笑)ご迷惑ながら、ひとサークルで一つのボックスをほとんど占拠してる状態なので、一応、昼に行っても他のサークルの方に迷惑はかからないので、で、ゲームとか漫画を読んでると...。中にはちゃんと絵とかイラストを書いている人もいます。

タグ ゲームに漫画にイラストですかぁ。部長さんは、ちなみにどういったことを専門にやってるんですか？

本田 僕は、その~基本的にはプラモデルとかなんですけど、ただ、市販の商品ではなくて、何も無いところから造り上げる、フルスクラッチというのをやってます。学祭に一回出したんですが、今は同人誌のイベントとか、ロボットもののイベントとかに...

タグ ロボットもののイベント?!コミケとは別に、ロボットものだけのイベントもあるんですか？

本田 はい、立体物のイベントがあるんで、そっちで販売を予定してます。学祭とかにも展示はしてるんで、よかったです。

タグ あぁはい、今後そういう展示を見るのが楽しみになりそうです。またまた、質問なんですけど、アニメとか見ると、声優さんに気になりますよね。そういうのにハマっていく方とかはいないんですか？

本田 いやぁ~、九割くらいはそうじゃないですかね~。

タグ じゃあ、声優活動とかしていらっしゃる方も？

本田 はい、以前はうちの会員だけで、ドラマCDみたいな感じで...。  
タグ CDブックってやつですね？  
本田 はい、ストーリーを、文章を書く班の人が考えてきて来て...ってことをやってました。で、今なんか再開しようって、また新しいのを創ろうと、新歓でやろうと思ってるんですけど。  
タグ っていうとそれは、映像に合わせてやるのではなくて、だからアフレコとかじゃなくて、ただ読み合わせみたいな感じでやるってことですか？  
本田 はい、そうです。ほんと、何でもやっていいこうみたいな感じなんで。  
タグ そうですかあ、でも、先ほどと言ってましたけど、そんなに活発に活動してても、あんまり積極的に外に出て行く人が少ないってことですが、それは自分たちの活動をあまり外に出したくないってことですか？  
本田 僕の個人的な意見としては、周りの反応が気になるっていうのがあるんですけど、「赤信号、みんなで渡れば・・・」みたいな感じで、みんなでやれば大丈夫かなあと。  
タグ あ～、やっぱりそれは俗に言う「オタク」って呼ばれる事への抵抗からですかね？  
本田 はい、そうですね...。最近なんかテレビの報道とかがひどいって言うのは、話題にあがりますけど。  
タグ どういう報道ですか、例えば？  
本田 あの～、奈良の事件があったじゃないですか？あれ関連で、ただオタクってだけでパッシングを受けるとか、そういうことがあるんですけど、うちの会員にしてはそんなことはないですし...、偏見を持たれるってのが、やはり一番いやですねえ。  
タグ ん～、確かに一言でオタクと言っても、いろいろですからねえ。そう考えると、映研なんかもう一種のオタクと言えるかも知れません。なんで、アニメとかに走る人達だけ、とりわけパッシングを受けるんでしょうか？  
本田 何でしょうね。たぶん、変な人が多いんですけど。まあ、うちにも何人がいますし...。あんまり、迷惑を考えない人というか...

タグ 迷惑？さあ、どんな事をするんでしょうか？  
本田 はははははー。  
タグ あまり言えないような？  
本田 はい、ちょっと...(苦笑)頭を悩ませます。まあ、それもサークル運営の一つであり...。  
タグ うんうん、部長さんは大変ですねえ。でも、こういうのをきっかけに、外に知ってもらって、そういう偏見みたいなものが、なくなるとまではいかないかも知れないですけど、まあ、ちょっとは取り除いていけたらいいですねえ...。  
本田 はい、できたらね...。でもうちは元気いっぱいですから。笑い声が絶えないですね。  
タグ 確かにいつも元気ですねえ、みんなハキハキと大きな声でしゃべってますよね。映研は、比較的ボソボソとしゃべる人が多いんですけど...。  
う～ん、映研は金曜日のミーティングの後、みんなで映画館に行ったりするんですけど、現視研の方は、みんなどこかに出かけたりはしないんですか？  
本田 人数が多いので、カラオケとかですかね。車持ちがないので、困りますねえ。  
タグ 車ないと遠出はできませんねえ。でも、こんど電車通ったら東京まですぐ出られますねえ。アニメイトとか行けますねえ。  
本田 多分、今みんなわき立ってると思います(笑)  
タグ 楽しみですねえ。映研では今、部費の使い道として、定期的に映画の雑誌、「キネマ旬報」とかを買おうっていう案が挙がってるんですけど、現視研さんでは、何か定期的に買ってる雑誌とかありますか？  
本田 季刊で、「コミック ス」っていう漫画の書き方とかの雑誌と、あとは「アニメージュ」とかを買ったりしてますね。  
タグ うんうん。あとこれも聞いてみたいんですけど、現視研の卒業生のその後の進路は、どういった感じですか？やはり、みなさん声優さんになった

りとか、漫画家になったりとかするんでしょうか？  
本田 そういう人はごく一部ですね。「ゲンシケン」で漫画を描いてらっしゃる方や、アニメプロダクションに勤めてらっしゃる方は中にはいますが、将来的にはみんな、職業は別だけども、趣味はこのままという人が多いんじゃないかなあと。あんまり、一生続けていってもいいのかなあという趣味なんですけど...(苦笑)  
タグ う～ん...うん。じゃあ最後に、文サ館のみなさんに、これだけは絶対言っときたい！ってことがあれば、何でもどうぞ。  
本田 ん～、はい。二階の皆さんには廊下を占有してしまったり、あとはたまに変な有機溶剤の匂いがしたりとか、そういうようなことに関しては、ホントに申し訳ないってことですかね。それから、ゲームばかりしてるサークルじゃないよ！っていうのは、言っておきたいですね。  
タグ はい、確かに聞きました。じゃあほんとに最後に、一つ。この前雑誌で「コスプレ喫茶」の記事を読んだんですけど、そういったところに行ったりはするんですか？  
本田 大好きな人はいますねえ。  
タグ えっ、現視研の中にも？！  
本田 うん、いますね。  
タグ 私も、最近すごく行ってみたい所なんです。普通に誰でも入れるんですか？それなりの格好をしていかなないと入れとれないとかは、ないんですかね？  
本田 僕は実際には行ったことは無いんですけど、全部人づてなんですけど、そういうことはなくて、その雰囲気耐えられるかどうかとか、その雰囲気を楽しめるかどうかとか、そういうもんだと思います。  
タグ うわあ～、耐える耐えないの世界なんですか？！  
本田 僕は、たぶん耐えられないから行ってないんですけど...。馴染めたら楽しいんですけど。  
タグ よし、行ってみよう！

## 対談後記

第一回目から、さつそく濃い話題で幕を開けました。映研の真向かいにボックスを構えていながら、今まで明かされることのないなかつた現視研の内部事情。このままだけに知らずいたら、我々映研一同も、彼等を悩ます「偏見」の波に加担していたかもしれないよ。現視研のみなさん、貴重なお話をありがとうございました。  
「思い立つたら吉日」と、いつもの調子でとりあえず行動。あれよあれよと言う間に対談交渉成立。うまくいく時は本當にうまくいくもんだ。しかし、あまりにも速く事が進みすぎて、下準備が間に合わなかった結果、記念すべき第一回のタイトルを「部長対談」などという、なんともまあ芸のないものにしてしまった...。好評であれば、今後も文サ館に所属しているその他のサークルとの対談も企画していこうと思ったりします。そこで皆様にお願いです。この対談に名前をつけて下さい。ステキなお名前を期待しています。  
以上、タグでした。



# MOUSOU - IMAGINATION

人文4年 谷ヶ崎深志

去年の年末だったと思うが、ある映画のタイトルが急遽変更になったというニュースを耳にした。なんでも有名なオールバックの成金おばあちゃんに「地獄に落ちるわよ」と、少々キツ目に言われたらしい。「占い師に相談する前に自分で何とかしろよ」とか思っている、占いに微塵も興味がない僕としては、タイトル変更は踏み切ったプロデューサー、ディレクターが全く理解できなかった。まあそのまま公開したところで大して集客できなそうな作品だったし、もしかしたらプロモーターが仕組んだニュースだったのかもしれないが、センスの無さはそんなことでカバーできるものじゃない。「サル」を「モンチッチ」にしたようなノーセンスなおばあちゃんに頼んじゃいけないと思う。僕ならバカルディをさま~ず、海砂利水魚をくりいむしちゅーに改名してブレイクさせた内村光良に依頼するけどなあ。今回は映画のタイトルについてちょこっと考えてみます。

前にもカチンコに書いたのだが、僕はあまり映画館に行って映画を観ない。理由を述べ始めると長くなるのでここでは避けるが、とにかく映画はビデオかDVDで観たいと思っている。そうすると必然的にレンタルビデオ店に行くことになる。勿論劇場公開時から気になっていた作品はレンタルする。しかし、劇場公開時には全く知らなかった作品をその場でふらっと手に取る事がある。その時手に取る/手に取らないの判断基準になるのはタイトルとパッケージデザインの良し悪しである。(僕はそのことを「ジャケ買い」ならぬ「パケ借り」と読んでいる。)僕はタイトルやパッケージに制作陣のセンスが反映されると思っている。そういったことにまで気が回らない制作は、ディテールにまでこだわった良い作品が作れるとは思わない。映画は映像とストーリーが良ければ良いのだが、僕はやはりタイトルにもこだわってほしいと思うのである。

タイトルには主に3タイプあると僕は思っている。一つ目は端的な単語でインパクトを与える「インパクトタイプ」。例えば「生きる」(黒澤明)や「dolls」(北野武)がそうである。インパクトタイプの場合、映画全体を象徴する言葉を見つけ出さなければならない。長い間その作品に関わっていればその位簡単だろうと思われるが、これが結構難しい。作品に関わる期間が長ければ長い程、作品に対する思い入れが強くなる。そうすると、色々候補が出てきてしまい、作品を作り始め時の初期衝動がぼやけていってしまう。かといって制作前にタイトルだけ決めてしまうのも、作品自体の読み込みが甘いとの的外れになってし

まう。ガス・バン・サントの「エレファント」は前者ではないかと僕は思っている。

二つ目は単語と単語を助詞で繋ぎ合わせる「助詞タイプ」である。これはインパクトタイプの発展形とも言える。これは単語の持つイメージが重要になってくる方法であろう。例えば「六月の蛇」(塚本晋也)。このタイトルを聞いて、「蛇と人間とが織り成す爽やかな感動ストーリー」だとは思わないであろう。「六月」という単語の持つ湿度と、「蛇」が持つネットリとした質感が組み合わさることによって、映画全体が湿度の高い、粘着質な作品であることを暗に示している。この「助詞タイプ」も簡単に使いこなせるものではない。単語が二つになった分、そのチョイスが幅を持っているし、更に前の単語と後ろの単語の関係性によってうまく全体を表現しなければならない。インパクトタイプよりも更にセンスが問われてくると僕は思っている。

三つ目は、最近良く見かけるようになった「文章タイプ」である。「偶然にも最悪な少年」(ゲー・スンヨン)や「誰も知らない」(是枝裕和)がこのタイプである。これは単純に文字数が多いこと、更には詰め込める情報が多いことにより、映画全体のイメージを端的に表すことが出来るため、前二つよりは楽であろうし、ネーミングセンスが足りなくても何とかなってしまう方法であるといえる。しかし情報が多いことが必ずしもプラスに働くわけではない。見る側がタイトルから得た情報に縛られる可能性があるからである。解釈の自由度が低くなるということは、観客に「押し付けがましい作品」ととられてしまう危険性を孕んでいる。つまりこのタイプでは言葉選びのセンスより、情報量のバランスに気を使うための細やかな気配りが必要になってくるのである。

もっとやっかいなのが邦題というやつである。原題を基に適切且つセンスの良いタイトルを捻り出すのは想像以上に骨の折れる作業だと思う。「死ぬまでにしたい10のこと」(イザベル・ヘコット)は、原題「My life without me」のままの方が良かったと思う。逆に「チョコレート」(マーク・フォスター)はチョコレート色の肌のハル・ベリー主演ということもあり、原題「monster s bell」よりも秀逸なタイトルになっている。去年ベネチアに出品された「恋の門」(松尾スズキ)は「Koi-no-Mon」という表記で出品されていた。主人公の名前がコイノと門だったということもあるが、ストーリーからして「恋愛の門をくぐる」という意味も持ち合わせたダブルミーニングのタイトルであったと思う。日本語ならそれが伝わるが、海外ではそうは行かない。どうせなら「Koino&Mon」とすれば良かったのに。「シド&ナンシー」みたいで。

まあこんな僕の妄想のような分析(もどき)が正しいのか正しくないのかはわからないが、タイトルをつけるのは非常に神経を使う作業なのではないか。僕は自主制作映画(CMや映像遊びも含めると、4年間で20本近く)を作っ

きた。そのたびにタイトルで悩んできた。脚本を書くより遙かに大きな悩みの種なのだ。結局非常に安易でノーセンスなタイトルになる。タイトルにこだわりたいのに、言語センスが乏しいという事態。なんとももどかしいのである。スーパーカーのいしわたり淳治は「タイトルは感覚で適当につける。」と自身の連載で言っていた。感覚で「Yumegiwa Last Boy」, 「Otogi nation」, 「Aoharu Youth」なんていう秀逸なタイトルを思いつくのは非常に羨ましい。椎名林檎の「無罪モラトリアム」, 「勝訴ストリップ」, 「真夜中は純潔」も羨ましい。some tonebender のVo 百々の「アンハッピーニューエイジ」, 「トリガーハッピー」も羨ましい。クドカンの「東北の魂」も、ラーメンズの二人も羨ましい。最近一番羨ましいと思ったのは「サンボマスターは君に語りかける」である。恐るべし山口。

とにかくタイトルって難しいのである。

最後に、去年亡くなった日本を代表する名カメラマン、篠田昇氏の冥福を祈りたいと思う。多くの素晴らしい作品を残してくださってありがとうございました。Mement Mori!!

終わり

社工4年 竹下晃太

大学生活最後のかちんこです。しかし、卒論もあって最近映画を観ていません。こまったこまった……。現在卒論発表当日準備が終わり寝る間を惜しんで書いています。放心状態から選んだ題材はジョゼと虎と魚たちです。ではどうぞ。

## ジョゼと虎と魚たち

2003年 116分 日本 カラー

監督：犬童一心 脚本：渡辺あや

撮影：蔦井孝洋 音楽：くるり

出演：妻夫木聡 池脇千鶴 上野樹里

新井浩文 江口徳子 藤沢大悟

ネタばれベイベ - です。印象深い2シーンだけ語ります。ではよーいドン。

1. ジョゼが「帰れ言われて帰るようなヤツは帰れ」とメチャクチャ矛盾することを言いながら、妻夫木（役名が思い出せん）の背中を叩き続けるシーン。ジョゼの心が響きすぎて痛かった。痛すぎて、もう激痛ってなほど痛かった。「ずっとここにいてくれ」と請いて泣くジョゼ……彼女の無愛想な態度は弱さを隠すよろいだったことが初めて露呈する場面です。このとき池脇千鶴は大竹しのぶのように見えました。根性、迫力、演技の新鮮さどれをとってもベテラン級です。観ている私が痛くて吐きそうになっていたのを思い出しました。

2. ラストのシーン。あれほど車椅子を嫌がっていて、乳母車や恋人の背中におぶさっていた彼女が、電動車椅子を操って買い物に出かけ、一人で料理を作っている。美味しそうな脂をじゅうじゅう言わせている焼き魚。味見をして満足そうに笑みを浮かべるジョゼ。その姿はカッコいいのだ。女一人のカッコよさ。恋人の妻夫木と別れた時は正直、意味不明だったのですが……。しかしジョゼはこの彼は運命の人だと思ったはずです。そしてこの時にはまだまだ彼女は弱かった。ずっと世話してくれたおばあさんに死に別れた直後。でも最後に彼女と別れて泣き崩れたのは男の方。「自分から逃げた」と言いつつ、その姿はフラれた男そのものである。彼は彼女の持つ人生の重みを背負いきれなかった。そしてその人生の重みを彼女自身は自らの責任をもって背負い、生きていくことができる強さを持っていたのだ。男はいつも弱い、女は土壇場では強い、そのことを再確認させられました。

妻夫木は嫌いですが駄目男役には適している役者だと思います。

最後にかちんこっていいものです。最近かちんこを書きたがらない部員も数名いるようですが、書けばあか。ではおしまい。

## 映画研究部のおかげでたくさんの映画に出会えました

社会工学類 4 年次 木村洋史

気がついたらもう卒業です。さみしくなってしまいます。大学での5年間はあっというまでした。それでは大学最後のカチンコに自分をぶつけたいと思います。

卒論も無事終わりほっとしていますが、決して「アバウトシュミット」のように抜け殻みたいにはなっていません。僕が抜け殻みたいになるのは試合の次の日です。その日はさすがになんのやる気も起きません。これは僕みたいな性格の人には合わない映画です。

昔ファンだった田中麗奈の「はつ恋」は僕のはつ恋のよく思い出せないので、難解な映画でした。とりあえず僕の初恋は田中麗奈ではないことは確かです。あと彼女の恋愛ものではないので、彼女との擬似恋愛を楽しみたい人には不向きです。ちなみに僕は大学時代恋愛関係は特にありませんでした。まあこういう人間もいてもいいんじゃないですか。今の映研はそういうのを受け入れてくれないような雰囲気があります。(特に私の場合)人の恋愛話を作り上げるのは是非やめていただきたいものです。恋愛といえがイタリア人が得意です。そこでイタリア人に学ぼうとイタリア映画を見ました。「炎の戦線 エルアラメイン」です。イタリア軍はヨーロッパ戦線ではボロボロでしたが、やはりアフリカ戦線でもダメでした。内容は今で注目されていなかった第二次世界大戦での敗戦国イタリア軍のアフリカ戦線の話です。同盟国のドイツからは嫌われ、まともに整っていない司令部の下で戦っていました。相手は物量人材ともはるかに上回る英軍。人間の視点から見たアフリカ戦線の話です。アフリカ戦線というとロンメル将軍などが思い出されるが、そんな英雄など一切出てこないところなど良ですね。また主人公が大学生の志願兵というところが、今の自分と重なり、近い気分で見る事が出来るんじゃないですか。ちなみに戦争映画久々に見ました。戦争映画といえば僕が一番好きなのは大脱走ですが、やはり収容所から脱走するというのはいつの時代になってもおもしろいです。「ショーシャンクの空に」は今頃見ました。僕も同じよう境遇になってしまい刑務所にぶちこまれても脱走できる自信はあるか考えて見ました。こういうことって眠れない時に布団で考えるとすぐに時間がたってしまうので、おすすめできません。答えは NO です。チキンな僕はあんなことできないでしょう。刑務所の中でスポーツにあけくれているかな～。スポーツ好きなおっさんに送るのは「ドラッグストア・ガール」です。どちらかといえばスケベなおっさん向けと言ったほうが正しい

のかな？内容は田中麗奈で引っ張っているような C 級映画です。でもその分みんなで見ると楽しめますが、一人で見ると虚しくなるなー。みんなで見よう！！ちなみに僕はコウタの家で、後輩の長瀬と見た。ちなみにみんなで見てかなり良かったのは「グッバイ・レーニン！」です。56になる親父も絶賛していました。ちなみに僕は統一した時に西ドイツにいて、ベルリンの壁を壊した経験もあるので、すごいのもり込みました。僕らは西側の視点からした冷戦の終結を見ていないのですが、これは東側の視点から冷戦の終結を見ることが出来ます。ちなみに東西ドイツ統一をベルリンにいた東ドイツ人の内縁の妻がいた日本人の視点から見た「ベルリンの秋」はおすすめです。これは「プラハの春」の続きです。春江一也さんの私小説なのでしょうか。東西ドイツ時代東ベルリンから西ベルリンへ壁を乗り越えるなりどうかして、西側に亡命した人は結構います。でもその際多くの人が命を落としたそうです。その亡命を描いた「トンネル」はかなり見ごたえがあるドイツ映画です。

私は映研の A ボーイ、つまり秋葉系の言われています。これは説明が長くなりますが、原宿系とか裏原系とか色々イケテイル系統がありますが、2年の頃コウタにキムキムはアキバ系だね！と言われて、自分もイケテイル系統の人間かと誤解してつい自分で「俺アキバ系」と映研で行ってしまい、爆笑いや失笑を買ってしまったことから映研の自他共に認めていない A ボーイになってしまいました。でもそんなアキバ系にも「恋の門」で世間に認めれてきているようになりました。(ちなみに今売れている電車男という本もアキバ系の人が彼女を作る話だそうです。そんなら俺が彼女作る話もバカ売れするのか？)内容はいわゆるアキバ系の人達にも視点を当てた映画。今までその世界はテレビで軽くしか知らなかったけど、ここまで奥が深い世界があるなんて！！！！知らなかった！でも映画の内容的にはあまり中身はない。まっ深い世界を知ることが出来るのではないだろうか。僕としてはアニメや漫画に対してそこまで情熱をかけることが出来るその姿がうらやましい。逆に僕はそこまで何かかけてきたものがあるだろうか、と悩んでしまいます。まっやる事は一つなんですけどね。恋愛ですかね。恋愛でも「初恋のきた道」は設定がありえないです。むしろ学者のたまされた恋愛の「エニグマ」は見ごたえのある作品でした。第二次世界大戦中のイギリスの情報部の暗号解読部でのお話です。学者達は戦争となると国に狩り出されていたのですね。まっ主人公がすげー美人な人にたまされてしまい精神病になってしまうのですが。そこまで盲目になるなんて、美しい。盲目になりたい。同時期にポーランドでは子供の純粋な話とし

で「ぼくの神さま」とユダヤ人の少年のお話があります。僕はかわいそう過ぎて見ていられなかったです。彼は戦後幸せに生きてくれたのでしょうか。

最近おっさんの少女への愛が話題になっています。「ロリータ」はそういうシーンもなく、哀れなおっさんがだまされてしまう話です。まるでそのような描写がなくてびっくりです。昔からそういうのってあったのね。不思議な愛として「マイ・レフトフット」があります。最後になぜあの女性は結婚したのかが大いに疑問。主人公は小児マヒなのですが、詳しく知らなかったので、勉強になります。でも彼にはあんなやさしい家族がいたってのは大きいですね。僕も将来愛情いっぱいの家庭にしよう。そして子供にはのびのびアメフトをさせてあげたいとおもいます。小学校ぐらいから地域のチームに入れてあげて。

とんでもない家族愛として「血と骨」があります。この小説を大学に進学し一人暮らしをする時に親父がこの小説を送ってくれたのがきっかけで見に行きました。舞台は大阪の鶴橋の朝鮮人街なのだが、すべてが無茶苦茶。自分の欲望のみの親父はすべてを破壊して 家族崩壊、家庭内暴力が続きます。姉の死が見ていて一番きつかった。SEX シーンもあるが、どれも暴力的で目を背けたくなるばかり。まあかなりパワーのある映画ですね。僕は大阪貿易高校(現開明高校)で京橋とこの舞台の近くでありそういう意味でも興味深かった。こういう映画の後は笑いたいってことで、「笑いの大学」。久々に笑えた。でも生まれて40年間も笑わないという信念があったのに、最後には笑うように変わってしまった。それが残念。

最後にとんでもない終わり方が「ノーマンズランド」。とにかく終わり方がすげえ。内容はボスニアでの戦場のお互いの境界線での事件なんですが、我々が生きている途中に世界ではこんな紛争もあるなんて、信じられないです。

「ラヂオの時間」を見て、へ～ラジオドラマってこういう風に作っているのか～と知れます。ラジオドラマってのがあるのにも驚いた。でもテレビの前の映画はそりゃラジオだわな。プロデューサー(唐沢寿明)を見て、そういうやついそうだなーと思った。ちなみにプロデューサーは監督よりも偉いらしいね。最近知った。

僕の理想としては他の人のカチンコ原稿を見てお互いを刺激しあい映画を見ることです。最近僕は昔の人のカチンコの評価を見て映画を見たりしています。今回は卒業する前々部長から、「パルコフィクション」を見た。良く分からん映画だった。1時間はちょっと短いな～。でもこの矢口監督って「WATER BOYS」や「スウィングガールズ」という青春の熱い映画を作っている。こういう青春映画は大好きです。体育会系の人にはおすすめでしょう。ちなみに中学校のときはモロ文科系でした。そして高校進学の際は高専も考えていました。これはマジです。結局は普通の商業高校に進学しました。だから「ロボコン」は親近感をもって見れました。久々にいい映画を見たと思った。俺ってこういう熱い映画も好きなのね。特に長澤まさみはいいね。ファンになった。「世界の中心で愛をさけぶ」なんかより断然ロボコンの方が俺は好きです。でもガチンコ理系の後輩に聞いたら、ロボコンはもっとオタクらしい。だからもっとマニアックにこの映画を作ったほうがいいってことだった。いやーでもみんなが熱中して目標に向かって作業するっていいね。後輩でロボコンをやっているやつがいるんだけど、ちょっとロボコンにまぜてもらおうかな～。こういう青春高校生もいれば、「ラブ&ポップ」に出てくるような援助交際ばかりやっている高校生もいると思うと頭が痛くなってきます。俺も痛い部類にはいるそうですが。内容はグロイし見終わった後の印象も最悪。でもそれは主人公が援助交際する女子高生とそれを買う親父だからか。深い映画だという人もいるかもしれないが、そんな安っぽい登場人物の発言に心は動かないな。そんな女子高生たちの神様みたいな存在である浜崎あゆみが出ている映画「渚のシンドバッド」は終わりも変だし内容もなんだかよくわかりませんが、好きな映画の一つです。同性愛に対するイメージも多少変わったような気がします。ホント好きになった人が同姓だとしたらしょーがないもんですよね。変態ではないかな。変体映画だよと言われてみたのが「六月の蛇」です。変態も何も意味がよく分からんってのもありました。友人から借りたのだが、友人曰く「人間はみんな変態だー」って発言にはまあ納得する面もあります。僕も大学に入るま

では俺って(変体ではなく)かわりもんかなと少し思っていました。大学に入ってみんなかわりもんやなど分かり少し安心しました。大学では少々スポーツをしましたが、そのスポーツを応援するバンドに焦点を当てた「ドラムライン」は衝撃です。ただのプラスバンドと思っていたら大違いで、へたな体育会系よりも運動・練習をしています。昔日本にも JAPAN BOWL で来たことがあるそうだ。その演奏風景はまさに素晴らしいの一言です。ちなみに日本の大学のアメフトの演奏では関西学院大学の演奏が好きですね。すばらしいダンスをする「Shall we ダンス？」は今頃みたのですが、やはりヒット作ですね。おもしろい。周防正行監督の「ファンシィダンス」は高校のときみて大ヒットしましたね。こっちのほうがおもしろさは上かな。

「ねじ式」もこれもまた意味の良く分からない映画だった。でも意味を求めてはいけないのかもしれない。主人公は漫画はもう描いていないのか？同棲していた女性はどうなったのか？田舎の飲み屋のかわいそうな女の子は何をしているのだろうか？と謎だらけである。終わりが謎である「69」ちなみにアダルトビデオではない。まあそれなりに楽しめたなあ。こういう高校生活もいいな～と憧れた。高校のときにぜひとも見たかった。俺はなんて地味な高校生活を送っていたのだ、、でも最高の高校生活を描いたのは「世界の中心で、愛をさけぶ」かな。でも最後まで3人の関係が分からなかった俺はにぶいかな。内容は悲しいだけだけどね。でも口ボコンでファンになったんだけど、長澤まさみがいい演技をしている！そして彼女の映画への意気込みに一気にファンになった感じである。

今月から映研に入る人がるのだが、彼は尼崎出身でつくばに来ている。同じような境遇の映画として「下妻物語」がある。住んでいる近くが出ていたのと、実家のある関西の尼崎が出ていたので気に入った。たしかに尼崎はすげーところで、高校時代尼崎から来ている奴は普通に万引きをしていたしなー、、内容はイマイチだったが、出てくる場所が身近でおもしろかったかな。まー茨城を知るには良い作品である。最後に？として「ピクニック」。

ながながと書いてきたが、これで大学時代に書くカチンコも最後。そしてもう大学を卒業！さみしくなるなあ。思えば2年生の秋から映研を覗き始めてからはじまった。前号からの続きである。そのときにいた部長はとんでもない人だったのを覚えている。もう下ネタ爆発であった。まあおもしろかったのだが。ここまでの人とであったのは衝撃であった。正式入部したのはその半年もあとだったかな。そのときに一緒に入部した1年生達はかなりパワーがあった。そやつらが今は幹部をやっているなんて不思議な気分である。そのころから映研でお食事会に行った後だれかの家でまったりと飲んだりするのに参加するようになったのかな。最初はたわいもないお話をしていたが、その後は爆弾が落ちまくりであった。よくもそんなに爆弾がいっぱい作られていたものだ。

最近部室の大掃除を行った。もう創立以来掃除はしてこなかったんだろうーなーというくらい汚れていた。なんと同じ部室を使っている園芸部の人とも掃除をしたのは映研らしくないといったところか。そのとき整理していたら創部以来のカチンコが出てきた。今は昔のを読んでいるところである。映研部員は過去のカチンコをすべて読むべきである。それをふまえて今のカチンコを書いていってほしい。ちなみに昔のカチンコでかなり面白い記事を読んだ。1980年に人間学類1年に在籍しておられた木村美樹さんの記事である。とにかくおもしろかった。しかし残念ながら1年生のときの記事しか見つからなかった。それ以降はどうされてしまったのだろうか、、、気になる所である。このようなカチンコを後輩たちに書いていってほしい。カチンコを盛り上げていってほしいと後輩たちに願うことにして大学生活最後のカチンコを終えとする。映研よ今までありがとう。卒業後は院に進に淫生になるので、またよろしくってことになるけどね。

Kimuheguri@yahoo.co.jp